

## 「これまで」と「これから」の自分

公益委員 平 田 浩 和

昨年7月に鹿児島県労働委員会の公益委員に任命されました。

昭和51年に県庁に奉職してから約42年間、18の部署で仕事をしてきました。それぞれの部署では、短い所で1年、長い所で5年間の勤務で、当時は辛いことが多かったですが、今振り返ってみれば、思い出がたくさん残っています。

その中でも、思い出深いベスト5を挙げれば、①企業誘致を含む産業振興、②九州新幹線の整備促進、③東日本大震災直後の危機管理・防災対策、④マリンポートの整備、⑤ケースワーカー ですが、この他にも、食の安心・安全やエネルギー問題など多くの経験をしてきました。これらの中で、私の世の中を見る眼や考え方などに大きな影響を与えたのは、ケースワーカーとしての4年間と国（当時の通商産業省）への出向の2年間であったと思っています。

今でも、これらのことについては、1時間でも2時間でも裏話を入れて話すことができます。しかしながら、昨年3月に県庁をリタイアしたときに、職場や自宅にあった書類、書籍やメモ類等のほとんどを廃棄してしまったため、正確な日時や数字等が分からなくなっていました。

リタイアした昨年4月以降、これからの自分をどうすべきか、また何を目標にしているかなどを思い悩んでいました。世の中には、リタイア後にどう生きるかを書いた多くの出版物が出ており、私も「定年後（楠木新著）」、「60歳からの手ぶら人生（弘兼憲史著）」、「百歳人生を生きるヒント（五木寛之著）」や「論語に学ぶ（安岡正篤著）」、「ブッダのひ

と言（高田明和著）」等々、数多くの本を読んでみましたが、なかなか自分の進むべき道を示してくれるものがなく、悶々とした日々が続きました。

一方で、昨年7月からは公益委員に就任し、労働法制の再勉強も必要になりました。労働法制については、以前勉強したことがあり、また仕事でも関係がありましたが、昨今の労働を取り巻く環境が大きく変化してきており、これらの動きに追いつくことにも必死に取り組みました。

また、2月の樟南高校での出前講座に備え、「働くことの意義」についても、改めて日本国憲法第27条第1項の「勤労の権利と義務」から再勉強を始め、「世界は誰かの仕事でできている」という最近のCMまでを調べ、臨みました。

今年になってから、ある日ふと、再度何らかの勉強をしてみたいという思いが沸き上がり、どうすべきかと色々考えた末に、まずは鹿児島大学の公開授業を受講しようと思い、2月に申し込み、4月から週1回ではありますが、大学に通う予定にしています。また、自分が、これまで長い間疑問に思っていた、明治時代初期の事件についても、自分なりに調べてみたいと思っています。

五木寛之著の「孤独のすすめ」の中で、「(心の)回転は上げつつ、減速して生きる。」「加速ではなく、スピードを制御することを考えなければならない。しかし、それは、後退でもなく、停止でもなく、確実に時代のコーナーを回っていくための積極的な減速です。」と書かれていました。

これまでの自分は、色々な面において、少し急ぎすぎていたのかもしれないと思いつつ、これからは、これまでと違い、どっしりと構え、じっくりと考える時間があることや、い

つでも路線変更できることなどを頭に入れながら、生活していきたいと考えています。